

I. 会員の資質向上支援

I-1 学会誌の充実

会員等の多様化する情報ニーズに応じて、学会誌の内容を充実させ誰もが読みたくなり、親しみのあるものにする。また、学会誌の情報発信のあり方について、検討する（主担当：編集委員会）。

I-2 研究発表会・シンポジウムの充実

会員の多く、特に若手会員や学生が研究成果を発表できる環境を整備するとともに、新しい話題の提供、国際的な交流セッションの充実により、会員の積極的な参加を促進する（主担当：事業企画委員会）。

I-3 ホームページなど情報発信機能の充実

ホームページ、ニューズリスト、SNS を活用し、タイムリーなニュースやトピックスを会員に発信する。さらに、会員以外への情報提供に資するホームページに関して検討する（主担当：広報・情報委員会）。

II. 学術・技術の進歩への貢献

II-1 基礎的な研究の継続

学術団体として、応用地質学に関する基礎研究を継続して行い、研究成果の公表を推進する（「I-1 学会誌の充実」、「I-2 研究発表会・シンポジウムの充実」と関連）（主担当：各研究部会）。

II-2 研究教育部門の充実

研究・教育に関する活動を充実させる（主担当：研究企画委員会、応用地質学教育普及委員会）。

II-3 応用地質技術者の育成

応用地質技術者育成のための応用地質技術入門講座などを継続する（主担当：応用地質学教育普及委員会、各研究部会）。また、応用地質学の体系化とそれに基づいた教科書の執筆に向けた具体的な活動を行う（主担当：教科書執筆特別委員会）。

II-4 先端技術の利活用

先端技術ワークショップの開催を継続する（主担当：研究企画委員会）。

III. 社会への貢献

III-1 災害対応への貢献

地質に係わる広域自然災害発生時には調査団を組織し、常時においても災害への備えへの啓発活動を行うなど、防災・減災・縮災に貢献する（主担当：理事会、災害地質研究部会、各支部）。

また、学会活動の強化を図るため、本学会としての BCP(事業継続計画)の策定に着手する（主担当：総務委員会、理事会）。

Ⅲ-2 アウトリーチ活動を通じた応用地質分野の魅力発信

一般市民への啓発・普及活動や安全な地域社会へ向けての提言などアウトリーチ活動を通して、応用地質分野の魅力を発信する（主担当：各研究部会、各支部）。

Ⅳ. 学会基盤の強化

Ⅳ-1 将来構想の策定

長期的な将来の本学会のあり方である学会の理念体系を明確化し、マスタープランおよびアクションプランの整合を図る（主担当：理事会、将来構想検討特別委員会）。

Ⅳ-2 国際活動の活性化

IAEGの各国ナショナルグループとの交流を深め、海外との情報共有をより活発に行い、研究発表会や講演会での国際交流を行う。2027年の第16回IAEGアジア地域会議（アジアシンポジウム）、ARC16の開催に向けた準備を進める（主担当：国際委員会、ARC16開催実行特別委員会）。

Ⅳ-3 ダイバーシティおよびインクルージョンの推進

多様な会員を受け入れ尊重する風土を醸成する。また、多様な会員が活躍できる環境を整備し、学会活動を活性化させる。また、応用地質学の学問分野の多様性を生かすため、委員会や研究部会、他学会等と連携した検討を行う（主担当：ダイバーシティ推進委員会）。

Ⅳ-4 関連学会との連携の強化

地球惑星科学連合での活動を継続し、また関連学協会との連携を強化する（主担当：理事会）。

Ⅳ-5 応用地質関連の研究者・技術者への支援

今後活躍が期待される研究者・技術者に対して、講習会や学会内外における研究助成の情報提供等、様々な支援活動を行う（主担当：理事会、総務委員会、応用地質学教育普及委員会）。

Ⅳ-6 オンライン化推進による学会活動の拡張

本部・支部間の情報交換、他支部イベントへの参加による本部・支部間の交流活性化のため、また学会活動のアウトプットをタイムリーに届けるため、インターネットを活用した事業を推進する（主担当：事業企画委員会、広報・情報委員会、総務委員会、各支部）。